

中札内村 道の駅「なかさつない」

# 地域活性化への取り組み

日高山脈の山裾、清流日本一にも選ばれた札内川流域の小さな村、<sup>なかさつない</sup>「中札内」。安全な食を目指して「有機農業の村」を宣言し、ブランド力のある農産物や加工品を次々と生み出している元気印の村。豆、馬鈴薯、小麦、ビートなどの畑作の他、牛乳、卵、鶏肉、豚肉など酪農や畜産も盛んです。地元の特産品を大集合させ、買って食べて憩えるのが道の駅「なかさつない」の魅力です。

オフィス街のランチタイム？と思うほどビジネスマンで賑わう道の駅のお蕎麦屋さん。地元のそば粉を使った手打ちそばが食べられる「蕎良」<sup>そばりょう</sup>は、オフシーズンでも出張族や営業マン、観光客でいつもいっぱいです。

アニメ「日本昔ばなし」に出てきそうな店構えは、大正末期に建てられた旧開拓農家の住宅。「開拓記念館」として火鉢やデレッキなどなつかしい暮らし

の道具が展示されています。そんなレトロな雰囲気の中で頂くのは、ゴボウ天と卵、かしわが乗った看板メニューの「開拓そば」。すべてが取れたての贅沢なお蕎麦はここでしか味わえません。

地元産の新鮮卵（写真-1）は、道の駅の人気ナンバーワン商品！自動販売機が常設され、行楽シーズンには1時間ごとに卵を補充しなければならないほどの売れ行きです。この卵で作るトロトロオムレツは絶品で、ケーキ作りにも泡立ちがよく使いやすいそうです。

卵に続く看板商品となったのが、えだ豆の加工品です。中でも冷凍食品の「そのままえだ豆（写真-2）」は有名居酒屋チェーンでも使われ、全国的ヒット商品となっています。畑から収穫後4時間以内に加工し瞬間冷凍したえだ豆は、色も鮮やかで甘みがあり、大豆本来の味が楽しめます。えだ豆を使ったカレーやスープ、味噌、焼酎、クッキーなどのシリーズは、季節ごとに限定商品を販売しています。

敷地内には、豆のことをもっとよく知ってもらおうと豆資料館を設けています。架空の人物、ビーンズ氏の自宅兼研究所というユニークな設定で、豆に関する資料が展示されています。豆を使った料理講習や工作教室も館内で開かれ、時間の流れがゆっくりと感じる癒しの空間です。

屋外スペースには芝生公園や池などがあり、ドライブ途中の休憩スポットにもなっています。春から初夏にかけては色彩豊かな花々が咲き誇ります。毎年7月中旬からは、街中が美しい花で飾られる「中札内花フェスタ」が開催されます。個人宅の自慢の花壇や農園の花畑が公開され、オープンガーデンが楽しめるんです。（写真-3）

芸術振興に力を入れている中札内村では、2年に一度、公募によるアート作品コンテスト「北の大地ビエンナーレ」を行っています。全国から多数の作品が寄せられ、道の駅でも出品作品の展示を行いま



写真-1 地元産の新鮮卵



写真-2 そのまま枝豆

す。また村内には、中札内美術村の「北の大地美術館」「小泉淳作美術館」など、芸術を鑑賞できるスポットも点在しています。さらに道の駅裏手の六花の森には広大な野草園の中に「坂本直行記念館」のほか様々な作品館も設置されています。



平成17年の大規模なリニューアル後、道の駅の来場者数はそれまでの10倍近くに急増しました。今年度も、前年度よりさらに多い62万人の方が訪れています。

敷地内には物産販売コーナーもでき、朝採りした新鮮な野菜が並びます。不揃いの野菜は一袋100円というサービス価格のものも多く、日常のお買い物にも好評です。

また地元食材を使った料理のイトインやテイクアウトができる「花水山<sup>かすいさん</sup>」では、ホエー豚のフランクフルト、中札内鶏肉の串揚げ、いもだんごなど、村の美味しいものが手軽に味わえます。チーズ工房「十勝野フロマージュ」のアイスクリームも常時10種類揃っています。カマンベールチーズのアイスクリームは、チーズ好きならずとも癖になるおいしさです。

リニューアルの際、道の駅を村内観光の拠点にしようと、観光案内を専任するコンシェルジュが置かれるようになりました。ステキな笑顔で迎えてくれる地元の女性から、おいしいランチ情報を入手したり、村のトピックスなどを聞いたりすると、旅の楽しさも倍増します。お客様からはお礼のハガキが届いたり、翌年また訪れる方もいて、コンシェルジュの存在は道の駅の大きな魅力になっています。今年、頻繁に尋ねられたのは、タレントの田中義剛さん



中札内村 地域課  
経済グループ 主査

高島 啓至さん

さんが牧場長を務める「花畑牧場」への行き方だそう。道の駅から車で7分ほどのところにあり、動物たちの多彩なショーやファームショーが体験できます。入手困難な生キャラメル



写真-3 オープンガーデン

も販売元の牧場なら購入できるとあって、お土産を求める出張族の姿が目立ちました。

今後の道の駅の計画を伺うと、2月にはアイスクンドルのタベ、3月には昭和山国際雪合戦の予選大会が村内で開催され、各種イベントの開催を通じた冬期間来場者数のアップを目指しているそうです。帯広空港から車で10分という距離にあるためレンタカーの利用者も多く、観光スポットと所要時間を網羅したマップを配布したり、ここでしか買えない特製弁当の開発なども考え中だそうです。



道の駅「なかさつない」  
観光インフォメーション マネージャー

いしわた ひろみさん

道の駅「なかさつない」は、帯広から南下する国道236号と道道清水大樹線の合流点にあり、南十勝の観光の拠点となっています。

昨年11月20日、帯広広尾自動車道、幸福IC～中札内IC間6kmが開通しました。南十勝と帯広市街がノンストップで結ばれ、アクセスが向上。物流の大型トラックの利用も多く、地元ドライバーにも信号で止まることなくスムーズにエコドライブができると好評です。

新しい高速道路から眺める風景は、広大な十勝平野の“パッチワーク”と整然と立ち並ぶ防風林。スケールの大きな十勝らしいシーニックバイウェイです！